

September
2022
No.554

9

一般社団法人 京都府建築士会

● けんくつれづれ草 第191回
次々世代と一緒にできること

● 事業案内

連続講座 茶室設計勉強会

パナソニックビジネスショールーム&ミュージアム見学会

令和4年度 監理技術者講習

令和4年度 既存住宅状況調査技術者講習

● 新年度名簿

令和4・5年度

(一社)京都府建築士会 委員会委員名簿

● 特集

石は意志・石の役割・石と愛

● 茶室勉強会 第2回

待庵と茶室の歴史

● 支部だより 遠く思えて身近なもの

● うちの本棚・今月の一冊 『小さな習慣』

● 募集 「京都だより」作品紹介ギャラリー

● 表紙のごとば 『慈照寺 観音殿』

京都だより

Kyoto Dayori



慈照寺観音殿

つれづれ
けんちく
草

洋裁などしたことが無い私が、ここへきて子供用のワンピースを作っている。四条通を歩いていて、ふと水色の小花の散った模様の麻布を見かけ、こんなお洋服着せたら可愛いやろな、と孫娘の姿を想像し、つい買い求めてしまったのだった。それから子供服の本を買い、友人に聞きながらネットを見ながら、悪戦苦闘。慣れない作業に時間ばかりかかるけれど、ミシンを踏んでいるととっても幸せ。いつの間にこの子、こんなに大きくなったんやろ、もう、10年経ったら成人式やな・・・そういえば、子供の小さいころ、義母はよくセーターやケープ、帽子やマフラー等編んでくれたっけ。きっと彼女自身が今の私みたいに幸せやったんやろな。世代が違うからこそ感じることのできる、普通の暮らしの中に繋がっている小さな幸せの数々。こんなささやかな幸せは世界中どの国にもあつて、どの国でも私たちの世代は、次々世代のこれから思いを馳せ、その時代が平穏で幸せな世の中である事を願っているのだと思う。

けれど今、世界では、普通に続くはずの日常が一瞬にして破壊されている国がある。又、世界的に食料が不足で、人口の10・4%、10人に1人が飢えに苦しんでいるという。地球規模では気温の上昇が止まらない。この夏も記録的な暑さで、暑さに慣れていない欧州が40℃以上の熱波に見舞われ、大規模な火事が起きている。エネルギーも足りない。日本では近々、9基の原子力発電所を稼働させ、火力発電所を追加的に10基

増やすのだという。老朽原発が抱える多くの課題や石炭によるCO₂の排出の問題は、当面放置したかたちで。

このように将来に向けての不安な要素が数限りなくある中で、私たちは子供たちに何を伝え、どの様な希望を語っていけるのだろうか。

係わっているNPOで「みんなで森を作ろうプロジェクト」を始める計画を立てている。杉の林だった伐採された山に、何十年か後を想像して、杉や広葉樹、花の咲く低木を植林する。散策できる道や広場を作り、小さな子供たちも一緒に手入れをし、次の世代に繋ぎながら森に育てていく。近くに増えている放置林を少しづつ手を入れて蘇らせる。

生活に近い所で、畑や田んぼを子供たちと一緒に作る。夏の暑さや生い茂る草、作物を食い荒らす虫等、思う様にいかないけれど、耕して撒いて手入れして、食べる物を収穫する。収穫した物を周囲の人たちと分けて無駄なく食べる工夫をする。

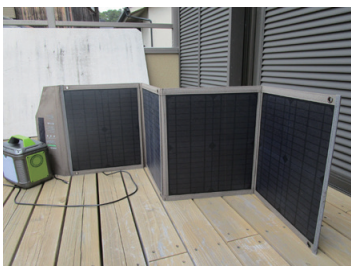
森と畑があれば、水やエネルギーの事も子供たちと一緒に考え、利用していける。山の中にある流れや雨水を利用し、小さなピオトープを作って小さな生き物が住む場所を作ったり、井戸水の復活もしていきたい。エネルギーは電気やガスだけでなく、薪や炭や木質ペレットを使い、火とうまく付き合いながら、料理や暖房として生活の中に取り入れる。小さな太陽光パネルや風力で発電した電気を蓄電し、少しでも自分で

電気を作って、実際の生活に役立てられたら・・・災害時にもきっと役立つ。

世界に直接個々人の意思は届かないけれど、一人一人が今持っている物や食べ物の由来に思いを馳せ、生活の様々なシーンを見直したり、工夫をしたりして使う物やエネルギーを少なくすることで、ずっと遠くにある環境やエネルギー問題に近づくことができる、孫世代の負担に少しでも配慮できるのではないだろうか。

そして、衣類は、マイクロプラスチックにならない素材の物を。

「ばーばが作ってくれたワンピース、ちょっと裾伸ばしてまだ着られるかな？」と来年も着てくれるかな。



防災グッズの携帯ミニソーラーパネルを日常に使う

次々世代と一緒に できること

連続講座 茶室設計勉強会

ヘリテージマネージャー委員会

- CPD 第1回・第3回：2単位
第2回・第4回：3単位
- 日時
第1回 座学：2022年9月9日（金）
午後7時～9時
第2回 見学：2022年10月29日（土）
午後2時～5時
第3回 座学：2022年12月9日（金）
午後7時～9時
第4回 見学：2023年2月4日（土）
午後1時～4時
- 会場
第1回・第3回 [座学]
京都建設会館別館4階北会議室
第2回・第4回 [見学] 松殿山荘
- 講師 桐浴邦夫氏
- 参加費 会員／9,000円
一般／12,000円

※参加費は4回分を初回に一括納入です。
ご納入後のキャンセル・欠席の場合は、
返金できませんのでご注意ください。
※振込先は、お申込の方にご案内します。

- 定員 25名（定員になり次第締切）
- 内容
茶室の設計力を身に着けるための勉強会2年目です。桐浴邦夫氏著書「茶室設計最新版」をベースに茶室の設計を、座学と見学を通して4回の連続講座で学びます。内容は昨年に引き続き、設計・施工と材料を中心に重要文化財である松殿山荘を見学、調査しながらの講義になります。新規の方にも配慮して進めますので、奮ってご参加ください。

パナソニック
ビジネスショールーム&
ミュージアム見学会

女性部会

- CPD 3単位
- 日時 9月22日（木）午後1時～5時
（ショールームのみは午後3時30分まで）
- 場所 パナソニック
ハウジングソリューションズ(株)
大阪府門真市大字門真1048
- 集合時間・場所
建築士会HPイベント情報に
掲載のチラシをご覧ください。
- 参加費 無料
- 定員 約15名
- 申込方法 建築士会HP
イベント申込フォームより
- 申込締切 9月19日（月）
- 内容
パナソニック本社に隣接するプロユースのビジネスフロアを予約訪問。即戦力となる建材のビジネスショールームを見学、道場と称したスペースでは、トップメーカーならではの視点で建材や水廻り製品の興味深い比較検討ができます。後半のパナソニックミュージアム松下幸之助歴史館は自由参加です。

令和4年度 監理技術者講習

事業委員会

- CPD 6単位
- 日時
第2回 9月29日（木）
受付開始／午前9時
運営説明／午前9時20分～9時30分
講習／午前9時30分～午後5時10分
- 会場 京都建設会館別館 会議室
- 定員 20名（定員になり次第締切）
- 内容
建築士会が行う『監理技術者講習』の大きな特徴は、『建築に特化した講習内容』であり、特にテキストは分かりやすく、建築施工実務に役立つだけでなく建築工事全体について学習できる充実した内容となっています。また、法定講習であると同時に建築士会CPD認定研修でもあります。
設計業務にのみ従事されている方も建築施工の知識を得るために、この機会にぜひ積極的にご受講ください。

令和4年度
既存住宅状況調査技術者講習

事業委員会

- CPD 5単位
- 日時 12月1日（木）
午前9時30分～午後5時30分
（受付：午前9時～）
- 会場 京都建設会館別館 会議室
（京都市）
- 申込
（公社）日本建築士会連合会HPよりお申し込みください。
- 内容
国土交通省の既存住宅状況調査技術者講習制度の講習を修了した既存住宅状況調査技術者が対象となります。資格を取得した年度の3年後の年度末までが有効期間となります。

＜事業に参加される方へ＞
新型コロナウイルス感染予防のために

- ・感染拡大の状況により事業を中止または内容を変更することがあります。
- ・参加される際は必ずマスクを着用してください。（熱中症などの対策が必要な場合を除きます。）
- ・37.5℃以上の発熱や咳、くしゃみ等の症状のある方は参加できません。
- ・事業実施中は係員の指示に従い、手指の消毒や手洗い、対人距離の確保（推奨2m、最小1m）など、基本的な感染対策にご協力ください。
- ・係員の指示に従わない場合は、参加をお断りする場合があります。
- ・感染拡大防止のため、連絡先の登録や接触確認アプリのインストールにご協力をお願いします。

お知らせ

「京都だより」特集まとめ

（一社）京都府建築士会のホームページで、「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧いただけます。

Event 2022
Calendar

10 ← 9

Exhibition
Seminar
Symposium
Event

	9	September
Sun	4	二級建築士設計製図試験受験講習会 応用6日目
Mon	5	常任理事会
Fri	9	茶室設計勉強会（第1回）
Sun	11	二級建築士「設計製図」試験
Thu	15	建築士定期講習（京都市）
Tue	20	支部長会議・理事会
Thu	22	パナソニック ビジネスショールーム&ミュージアム見学会
Thu	29	監理技術者講習
	10	October
Mon	3	常任理事会
Sun	9	一級・木造建築士「設計製図」試験
Sat	29	茶室設計勉強会（第2回）

※注意：京都建設会館の駐車場は
利用できません

参加申込

電話・FAX、またはホームページからお申し込みください。事業内容の詳細は、ホームページをご確認ください。

（一社）京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077
https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp

**まちづくり委員会
放送担当部**

部長	伏木 道雄
委員	江坂 幸典
〃	騎馬 一晃
〃	篁 正康
〃	竹山 奈乙雪
〃	田中 州吾
〃	遠島 和恵
〃	西田 教子
〃	松田 容子
〃	松本 匠

**ヘリテージマネージャー
委員会**

委員長	熊田 孝
委員	大窪 健之
〃	桐浴 邦夫
〃	志村 公夫
〃	竹山 奈乙雪
〃	遠島 和恵
〃	富家 裕久
〃	永松 尚
〃	橋本 光生
〃	風月 匠幹廣
〃	伏木 道雄
〃	山田 敬子
担当委員	岩田 信一
〃	栗山 裕子
〃	西田 教子

**地域貢献活動センター
委員会**

委員長	高木 伸人
副委員長	大窪 健之
委員	秋山 哲平
〃	江坂 幸典
〃	北原 章裕
〃	塩見 恭子
〃	椿森 昌史
〃	森重 幸子

**CPD・専攻建築士制度
特別委員会**

委員長	岩村 眞樹雄
会長	山領 正
委員	秋山 哲平
〃	板倉 昇
〃	江坂 幸典
〃	岡本 章良
〃	黒木 幹雄
〃	塩見 恭子
〃	椿森 昌史
〃	遠島 和恵
〃	西田 教子

顕彰制度特別委員会

委員長	黒木 幹雄
委員	宇治川 和樹
〃	佐久間 譲
〃	篁 正康
〃	橋本 政樹
〃	藤原 出
〃	米沢 和也

災害対策特別委員会

委員長	池内 隆人
委員	秋山 哲平
〃	岩村 眞樹雄
〃	内海 正也
〃	江坂 幸典
〃	大村 利和
〃	塩見 恭子
〃	椿森 昌史
〃	遠島 和恵
〃	藤本 義明

ハート&ハード研究会

座長	村松 徹也
幹事	梅野 星歩
〃	桂 浩子
〃	金森 保則
〃	中井 美佐子

住まいの環境研究会

座長	山本 晶三
幹事	生田 博昭
〃	岩井 清
〃	古賀 芳智
〃	長樂 活周
〃	中井 美佐子
〃	古谷 とみ子
〃	村田 真一
〃	山崎 武志

木造建築研究会

座長	山本 晶三
幹事	岩井 清
〃	志村 公夫
〃	高橋 勝
〃	竹内 明
〃	富家 裕久
〃	長瀬 博一
〃	能戸 謙介
〃	畑 正一郎
〃	伏木 道雄
〃	南 宗和
〃	村田 真一
〃	安田 邦雄

BIM研究会

座長	黒木 幹雄
幹事	黒木 要州
〃	橋本 華名
〃	日高 修
〃	村田 裕基

団地再生研究会

座長	能戸 謙介
幹事	高橋 完実
〃	塚本 康仁
〃	藤井 匠
〃	松本 匠

令和4・5年度

(一社)京都府建築士会

委員会委員名簿

総務委員会

委員長	長	克彦
副委員長	長	樂活周
委員	秋山	哲平
〃	大村	利和
〃	塩見	恭子
〃	瀧口	静
〃	富山	育子
〃	伏木	道雄

事業委員会

委員長	能戸	謙介
副委員長	橋村	幸司
委員	寛下	隆司
〃	笠井	博有
〃	澤田	政信
〃	杉野	安男
〃	富田	健治
〃	福井	基文
〃	山崎	武志
〃	山本	晶三

研修委員会

委員長	細見	建司
委員	石井	克憲
〃	稲端下	恵子
〃	北川	義明
〃	小林	浩之
〃	塚本	康仁
〃	寺田	励子
〃	内藤	慎治
〃	藤本	義明
〃	松田	裕之
〃	松村	隆孝
〃	松本	和之
〃	村田	綾子

法制委員会

委員長	岡田	圭司
委員	富家	裕久
〃	藤田	哲哉
〃	山岸	隆志

建築士試験・資格委員会

委員長	黒木	宏知
委員	伊佐	哲雄
〃	榎本	康介
〃	鬼塚	勝美
〃	炭崎	勉
〃	田村	満
〃	力石	教夫
〃	中村	修司
〃	西尾	幸雄
〃	橋本	達也
〃	林	栄二
〃	林	謙一
〃	藤田	浩之

渉外交流委員会

委員長	桂	浩子
委員	勝本	一登
〃	田原	治夫
〃	仲尾	博史
〃	永山	かをり
〃	野村	正樹
〃	山口	益人
〃	山田	孝司

広報編集委員会

委員長	黒木	要州
副委員長	堀尾	智子
委員	加藤	正浩
〃	徳光	都妃子
〃	沼田	俊之
〃	松田	容子
〃	森重	幸子
〃	矢谷	明也

会員厚生委員会

委員長	一志	学
副委員長	稲村	崇
〃	西村	和紀
委員	生田	博昭
〃	上岡	正幸
〃	牛平	雅之
〃	梅野	星歩
〃	小幡	真次
〃	小畑	隆正
〃	騎馬	一晃
〃	坂本	誠
〃	佐野	匠
〃	竹内	明
〃	中井	美佐子
〃	古谷	とみ子
〃	宮治	吉彦
〃	八木	光也
〃	山田	幸司

まちづくり委員会

委員長	伏木	道雄
委員	荒木	和彦
〃	生田	博昭
〃	石田	泰久
〃	江坂	幸典
〃	長	克彦
〃	加藤	正浩
〃	騎馬	一晃
〃	齋藤	義憲
〃	篁	正康
〃	田中	州吾
〃	遠島	和恵
〃	富山	育子
〃	内藤	郁子
〃	中村	雅一
〃	西田	教子
〃	畑	正一郎
〃	村田	真一

石は意志・石の役割・石と愛

梅野星歩



うめの・せいほ

(株)梅鉢園 代表取締役社長

1級造園技能士
2級造園施工管理技士
京都景観フォーラム
エリアマネージャー
京都市文化財マネージャー
竹文化振興協会会員
文化財石垣保存技術者協議会
技能会員

著書／京都庭師のフィロソフィー



写真1 香川県イサムノグチミュージアムにて筆者



写真2 宮崎県天岩戸神社

この度、石や石垣についての投稿をお声掛け頂いた訳だが、職業柄「石」を扱うという立場と個人的に「石」に魅了されている事もありタイトルを「愛」とさせていだいた。これはあくまで主観的な物でありエッセイとして読み流していただけたらと最初に断りをいれておく。

一般的には石というと無機質で冷たいイメージを持つ人も多いようで、日本人にとっては「木の温もり」といった方が身近ではないだろうか。

しかし、かつてイサムノグチ（写真1）がこんな事を言っていた。「石を割ることは暴力の行為でもあり、愛の行為でもある。それが侵入でもある。」と。

一方ではイサムノグチ終生の右腕で石匠の和泉正敏は「石には計り知れない不思議なエネルギーがあります。石を割る事は石を破壊することではありません。山の神様の物であったその命を大切にいたいただく事です。石は生きています。」と、両巨匠は石が無機質ではなく「愛」であり「命」であると説いた訳である。

古来より自然崇拜の中で天岩戸（写真2）や二見ヶ浦、磐座のようにご神体としての存在や樹木・水・火などからアニマを見出し、現在でも神籬や神事として継承する民族性から考えると、単に岩石という物質と

いうよりは見えない物への畏怖と謙虚さから、様々な想像を促させる対象である事も理解できる。

その中で石の魅力を幾つかあげると

1つ目には「時間の蓄積」がある。人類のはかない命と比較すると圧倒的な時間の経過を端的に表現する姿は永遠性の象徴でもある。蘇我馬子の墓とされる明日香石舞台古墳（写真3）に限らず権力者が石を好んだのも、平安期の末法思想やキリスト教のメメント・モリ、今回のパンデミックによるパニックのように終末への恐怖やそこから逃れるために永続性を追求するメカニズムが古今東西人類の共通認識だからである。また身近な所では先祖を祀るために墓石を通じて記憶と記録を受け継ぐ才能を石に託している。

2つ目には土地の声を多に反映している事だろう。鬼の洗濯岩で有名な宮崎県日南海岸にある宮崎層群（写真4）は800万年〜1200万年前に泥岩と砂岩が交互に積み重なった大地変動の証である。やがて柔らかな泥岩の部分が先行して浸食され現在の姿になっていく訳だが、その景色は自然の不安定さというよりも規則的で人工的であり、想像を超える造形に言葉を失うばかりである。また、兵庫県豊岡玄武洞（写真5）における160万年前の柱状節理は



写真3 奈良県明日香石舞台古墳



写真4 宮崎県日南海岸



写真7 京都府笠置寺と筆者



写真6 柱状節理説明文



写真5 兵庫県豊岡玄武洞

火山の噴火により溶岩が流出し急激に冷え固まり出すと無数の六角形（写真6）を大量に生み出し、壮大なボロノイ図を展開した大自然の軌跡が真善美を超越した真理の姿になっている。

3つ目は少し重複するがやはり人智を越えた圧倒的な姿ではないだろうか。現代の科学やテクノロジーを駆使しても到底かなわない存在感にしばしば遭遇する。京都府南部笠置寺（写真7）や広島県宮島（写真8）における花崗岩は約1億年前にマグマが冷え固まり隆起した単なる物質や自然現象だけでなく、神仏の領域を感じる存在であり古代人から現代人に至るまで信仰の対象となっている。

4つ目にはそれら自然界からボロノイパターンやフラクタル・黄金比といった法則を発見し、デザインとして落とし込んだ石積みや庭園技法等も含む人々の営みと自然の関係を結びつける創造やアート、信仰の行為を産んだ事である。

桂離宮の霰こぼし（写真9）や京都迎賓館における畳石は、職人の伝統技術として脈々と受け継がれており習得するには長い時間や経験が必要になるが、行えば行うほど自然の生み出した造形と向き合う事になり、最終的には自然の造形美こそが師匠となる。庭造りとはある意味、偽物の自然を作っている訳ではあるが模倣行為を繰り返すほど、より自然の中に引き込まれ同化せざるを得ない状態になっていく。昨今、多発する台風や水害あるいは今後30年以内に70%の確率でやってくる南海トラフ地震などは、脅威であり畏怖の対象ではあるが、分離ではなく適切な間合いと理解が大切である。前述の日南海岸にある飢肥城下町（写真10）にある溶結凝灰岩の石積は、治水防災の機能や伊東・島津両家の100年に及ぶ戦いの防御システムであり、必然性から生まれる。

デザインであるが先人の苦悩を感じさせない程、穏やかな城下町の景色として溶け込んでいる。京都市京北町におけるチャート石（写真11）の切り込みはぎや、東海地域によく見られた亀甲積は、単なる土留めといったカテゴリーを越えた総合芸術としても目を見張るものがある。地域の素材を活かしたヴァナキュラーデザインが生まれ、現在もかろうじて保存される姿は、均一化した現代において個性を光り輝かせているのである。

石はこのように様々な役割と共に造形も多岐にわたってきた。石器時代のサヌカイトや装飾のヒスイは不老不死や生命の再生として好まれ、祭祀における環状列石や建造物の基礎石、大阪城火薬貯蔵庫である焰硝蔵（写真12）は耐火・耐久・耐水機能を求められ建物全体が花崗岩で構成されており、鹿児島仙巖園（写真13）では濾過池を囲う建築物が溶結凝灰岩の構造体であり生命の源である水を守っている。戦国時代の石垣や1701（元禄14）年に完成した閑谷学校（写真14）における卓越した石工による瀬山石の切り込みはぎの技術は、数百年たった現在でも舌をまく匠の技である。時代背景として百間川洪水の治水、新田干拓事業による石積堤や分流部砂防ダム（亀の甲）が整備され、それらの形と類似している事が興味深い。普請した津田永忠は岡山後楽園の普請も行っており、やはり城内にも同じような造形が見られ、大阪から招聘された石工職人の河内屋治兵衛の功績も大きいと見られる。その他、道路や水路などのインフラや宅地、耕地の土木造成、近年ではアマン東京にあるスィーツショップの伊達冠石製カウンター（写真15）は、和泉正敏が率いた和泉屋石材店の見事な仕事である。

その中で前述のようにハード面にとどま



写真10 飢肥城下町石垣



写真9 桂離宮霰こぼし



写真8 広島県宮島弥山



写真13 鹿児島県仙巖園



写真12 大阪城焰硝蔵



写真11 京都市京北町チャート石

らず内面的な役割を担った事例の一つに穴太積（写真16）がある。穴太積とは自然石をあまり加工しない野面石や粗割石を使用した野面積の古式伝統工法であり、当時の防衛システムであるが強度と権力の象徴をも兼ね備える役割が求められ、神格化される刀のような存在であった性格上、強度＋美という公式が生まれたという側面も持つ。現在でも滋賀県坂本には穴太衆のご末裔がおられ、14代目石匠栗田純司会長や15代目栗田純徳社長にご指導いただく機会にも恵まれる。

穴太積の特徴の一つはセメントやコンクリートを使わず空積みという古式伝統工法を用いる事であるが、発祥時期の戦国時代にはコンクリートは存在しないので、裏側には栗石という大小の石を敷き詰める構造となっている。それが排水や地震の時の緩衝材にもなり、強度が担保され「1グリ・2石・3に積」という言葉があるように一番目にグリ石が重要で、二番目に積石、三番目に積む技術と言われるほどである。その他にも控えと言われる表面から尻への長さで石の奥行き見えない裏側の石と石の噛み合わせが非常に大切になってくる為、ゴボウ石と呼ばれる長い石が使用される事もある。裏側の接点は介石という石で固定される訳だがその精度が低いと崩落につながる。つまり「介」は介抱や介護のように支える意味であるが同語として「飼」の文字が使われる事もある。見習いの頃は習得するのに3年程かかる場合もあるようだ。そして強度と美観を兼ね備えた表面で積まれていく石のバランスが重要になるが、伝統工法という性格上、数値化や言語化という事が非常に難しい。なおかつ天然素材で一つと同じものではなく平準化もされない。ましてや石工や職人の世界は背中を見て覚えるという前時代的な慣習も十分残る世界で

ある。

穴太衆の言葉に「石の声を聴け」という有名なフレーズがあるが、石匠たちは様々な形の石を選択し見事に積み上げていく。巻尺なども使わず選択した石がピタッとはまっていく超人技は見ていて感銘を受けるばかりである。これは経験値の蓄積によって、判断基準が増え決定するまでの思考回路が潤沢になるのかと解釈していたが、14代目のお話を伺うと「石積は一隅を照らすという事」と教わった。「一隅を照らす」とは天台宗の開祖、最澄の言葉で「一人一人が自分のいる場所で、自らが光となり周りを照らしていく事こそ、本来の役目であり、それが積み重なることで世の中がつけられる」といった意味だが、比叡山のお膝元にある穴太衆の真髄に触れた瞬間でもあった。

現代社会では数値化・言語化・平準化・安全基準を追求していく中で物と向き合うことが希薄になり目の前の事について考える機会が減ってしまったが、穴太積においてはどんな小さな石でも自分の目と感覚と意志を持って向き合う事を余儀なくされてしまう。

一見、非効率で前時代的な職人の世界は、石と人の対峙するマインドフルネス状態でもある。

また戦国時代においても現代においても様々な石工や職人が同じ現場で工作物を作り上げる事が日常的だが、様々な背景を持つ職人同士が合意形成するためには共有の感しなければならず、多様な素材の特性を見極め適材適所に配置し、様々な背景のベクトルを舵取りし集合体として作り上げると、まるで生命を宿したような結晶になり、普請の醍醐味を肌感覚で体感するのである。

穴太積は重機や工具を兼ね備えた現代でも困難な技能であるが、その度に先人の偉大さや苦勞を感じ対話できる装置でもある。



写真16 穴太積

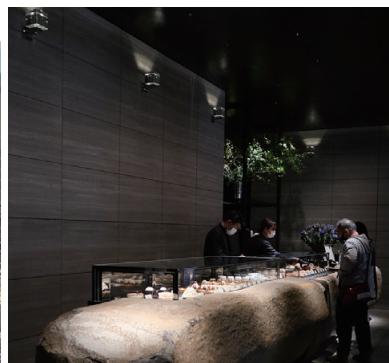


写真15
アマン東京 ラ・パティスリー



写真14 岡山県関谷学校



写真19 浅草寺石橋



写真18 道明寺天満宮(隅部凹形状)



写真17 日比谷見附(隅部凸形状)

15代目石匠は裏の见えない場所にこそ配慮が大切であり、心の余裕がなければ良い物はできないと石積を通じ倫理観を学ぶ機会にもなる。一つ一つの石を積み重ねていく事は自らの见えない心を積み重ねる「行」であると考えなくてはならない。

しかし平安鎌倉の頃に「石立僧」と呼ばれる僧侶が作庭に関わっていた事を考えると、石に精神性を求める事は、いたって自然であるかもしれない。

また注目したいのは天場石にむかって忍び返し構造に「反って」いくわけだが、これは防御の意味と直線的に作成すると錯視してしまうため、パルテノン宮殿のエンタシス構造のように視覚効果を狙った美意識と共に巨大な石垣だと、天端の使用面積をより広く有効活用する「用と景」を兼ね備えた知恵が、内包された構造体である事を付け加えておきたい。

その他にも端部にフォーカスした美意識で紹介したいのは日比谷見附における隅角稜線部のラインと「むくり」構造がある。所在地は江戸城内曲輪門「江戸城日比谷見附跡」で、1627(寛永4)年に安芸広島藩の藩主・浅野長晟によって石垣が、1629(寛永6)年に陸奥国仙台藩の藩主・伊達政宗によって枡形門が造られた経緯があり、現在も日比谷公園の北東に石垣が残されている(写真17)。

この安山岩の造形は前述の城積の「反り」とは逆の「むくり」構造が一つ一つの石に加工されており、端部のエッジを削りだしている点が非常に高度な技術であり、尚且つその線を上下に一直線上につなげる事により輪郭線を強調し美しいフォルムを生み出している。突起部分だけを残すような加工の場合、1カ所破損するだけで価値を失ってしまうため、角を出さずにくぼませて加工する方が安全性は高いのだが(写真18)、

硬い安山岩の特性と高い技術・職人の意地が伝わってくる凄さがあるため興味があれは是非ご覧いただきたい。

そして背景として興味深いのは、浅野長晟が石垣を作成した年代は上田宗箇の存命中でもあり、関係性など浪漫が広がる所であるが今後の調査に期待したい。

浅野長晟は1616(元和2)年、徳川家康三女の振姫と結婚し、振姫は翌年の1617(元和3)年に浅野光晟を産むも、当時としては高齢出産のため16日後に死亡する。享年38才であった。その後1618(元和4)年、浅草寺に東照宮が造営された際に浅野長晟が参詣のための神橋として石橋を寄進する(写真19)。1642(寛永19)年の火災により東照宮は消失してしまうが、石橋は現在も残り、東京都内最古の石橋として生き証人となった安山岩の石橋は、様々なドラマを語り継いでいる。そして偶然ではあるが浅野長晟の生まれ故郷は滋賀県坂本であり、石の共鳴に運命的な事まで感じてしまう。

穴太積にせよ石を扱うにあたって細工をする必要がある訳だが、自然石を無垢として見せたい場合は極力、人為的な作為を見せないというのが原則である。そのため現在でもカッター跡やドリル跡、割り面を正面に持つてくるのは原則タブーとなっている。いずれにしても石は固く現在では高圧の機械など多く存在するが、やはり熟練した技術と道具が必要となる。そういった前提の上で日比谷見附のような造形と出会うと感嘆してしまう訳だが、自然の造形はまたしても叡智の想像を越えていく。

前述の宮崎県日南海岸の宮崎層群は、泥岩砂岩の交互層であるが柔らかい泥岩が浸食され、石のわずかな数%のみが残され芸術的な造形が生み出されていた。何十トンにもなる巨石の数センチだけを残して人為で

加工する事は、現在の設備や技術を持つてしても困難を極め、自然の偉大さには、ただ驚愕するのみである。

人類の歴史は自然と人間の中間領域においてどのように関係性を持つたかという永遠のテーマでもあり、天地を行き来する神の使者である神鳥が止まる鳥居や、アイルランドのストーンヘンジ、フランス・ブルターニュ地方のカルナック列石、伊勢神宮の冬至祭、平等院や無量光院と春分秋分の関係性など自然と対峙しながら見えない物や事を可視化させ、どこまで踏み込んで良いのか、又はどこからは踏み込んではいけな

いのかの領域を確認してきた訳である。天文学者のカール・セーガンは「私たちは星のかげらでできている」と唱えたように、138億年前のビッグバンから放れた炭素により作られたアミノ酸や多くの物質が形成された地上の植物や動物の持つ炭素は地球上の1%にすぎず、残り99%は地下鉱物で成り立っている。そう考えるとやはり大地から生まれた栄養や要素を恵みとして得ている以上、産土神として信仰することが理にかなっているようにも思う。

アイヌ文化の中でも「天候や伝染病など人間の力が及ばない事」を「カムイ」と呼びこの世のあらゆる物に魂が宿っていると考えられているが、石を通じ自然界との豊かな関係性を保つ事は古代から続く知恵でもある。

待庵と茶室の歴史

桐浴邦夫

待庵の不思議



きりさこ・くにお

京都建築専門学校 副校長
建築史家・博士(工学)・一級建築士
新建築a+uゲストエディター
京都市文化財マネージャー(建造物)
擁翠亭保存会代表・松殿山荘茶道会理事
有斐斎弘道館理事
1960年 和歌山県生まれ

待庵について、不思議を感じたことはないだろうか。かつて私はひとつの不思議を感じていた。

大山崎の地は、背後に天王山を控え、桂川・宇治川・木津川の三川が合流し、向かいに男山を望む。西に大阪平野が拡がり、東に山城盆地、昔は巨椋池も遠望できたであろう。このような風光明媚な場所に待庵は位置している。もともと現在妙喜庵にあるが、元は山崎の利休屋敷にあったものが移築されたと考えられている。山崎城説

茶の伝来から東求堂

茶は中国から日本に伝えられた。まずは平安時代のはじめ、815（弘仁6）年、嵯峨天皇が近江唐崎で茶を飲んだのが、日本の文献に見られる最初の喫茶の記録である。残念ながらその後平安時代においては、国風文化が栄え、一方で中国風と考えられる茶の文化は大きく拡がりをみせることはなかった。

次に鎌倉時代、再び茶が日本にもたらされた。臨済宗の開祖栄西が中国から伝え、その効能や飲み方を『喫茶養生記』という書物にまとめた。その後、茶を飲むことは大きなブームになった。鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』には、源頼朝が二日酔いとき、栄西によって茶が献じられ、すっかり回復したという逸話が掲載されている。

その頃の茶は、まだのちの茶室のような特別な場所ではなかった。正確なことは不明だが、中国から伝えられたものであるため、

もある。といっても、いずれも山崎であることには違いない。で、何が不思議なのかというと、このような風光明媚な自然豊かな場所にあつて、極めて閉鎖的な空間なのである。

茶室とはそういうものだ、という意見もある。もちろん茶事するときには、明障子を閉めることも承知している。が、今から10年ほど前、向かいの八幡の男山山腹でその遺跡が発見された空中茶室を記憶しているだろうか。詳しくは稿をあらためるが、小

屋内あるいは屋外において椅子に腰掛けて茶を飲んだと考えられる。鎌倉時代末から室町時代頃に成立した『喫茶往来』に、当時の茶会の様子が記録されている。このときには「喫茶の亭」と呼ばれる建物が記録されている。これが何と二階建ての楼閣だったのである。その二階において、豹の皮をしいた椅子が並べられ、壁面には彩色の仏画などが掛けられ、金蘭の掛けられた机には胡銅の花瓶が置かれ、錦繡を敷いた机には真鍮の香匙や火箸をたて、襖には唐絵が描かれていたという。中国などからの舶来の品々で部屋を飾ることは唐物荘厳（からものしょうげん）といい、中国そのものではなく、おそらく当時の日本人が中国をイメージしてのしつらえであつたと考えられる。

その頃の茶は、闘茶などというゲーム性を備えた形式も生じるようになっていた。場の高揚のため唐物を並べ、ときにはそれ

堀遠州が松花堂昭乗のために造った茶室ともいわれ、懸造で空中に張りだした建築であつたという。具体的な使い勝手は不明な点もあるが、当然窓を開放して周囲の景色を見わたしたことは容易に想像がつく。また茶の湯は、その「茶」という漢字から、草と木の間に人がいると説明されるほど、自然との結びつきが強い文化である。

しかしながら待庵は、自然豊かな山崎に、さらにその中の妙喜庵の庭園ともあまり深い関係を持たず、通常よりはやや大きめで

が賭けの対象として扱われた。もともとういった事態に室町幕府も頭を痛め、しばしば禁令を発出したという。

やがてこのような贅を尽くした奔放な形式の茶は、なりをひそめるようになる。いっぽうでゲーム性を備えた茶は、平等という考え方を茶の中にもたらした。つまり付度があつてはゲーム性が失われるからである。

具体的な時期は明らかではないが、茶は椅子ではなく、畳の上で飲まれるようになった。先の幕府の禁令が、贅沢なものの抑制につながつたであろう。板敷に畳を追い回しに敷いた場所、あるいはやがて敷き詰められた畳の上で茶が飲まれるようになった。同じ種類の畳の上に着席した会のメンバーは、少なくともその会においては互いに上下なく、平等に相対した。先の闘茶の利点が継承されたものとみられる。殿中の

はあるが、しかし小さい躰口を設け、狭い土間庇を備え、そこを通じて辛うじて妙喜庵庭園とつながる。極めて閉鎖的と言わざるをえない。

さて今回は、今述べた待庵の不思議を解消すべく、茶の湯と茶室の歴史をみてみたい。私自身、かつて感じていた不思議が、歴史を整理すると自然に解消した。これを皆様にご披露したい。

茶と呼ばれる形式が生まれた。室町將軍の会所では、九間（このま）と呼ばれる主客が相対する空間がメインの座敷であつた。そこに茶の湯の間などと呼ばれる茶を点てるための部屋が付属し、同朋衆らが点てた茶を九間に運んだものと考えられる。

やがて新しいタイプの茶が生まれるようになる。それは茶の湯とも呼ばれ、村田珠光という人物がその中心にいたと伝えられている。その新しい茶の湯のうわさを聞きつけたのが足利義政であつた。義政ははじめ殿中の茶の形式で茶を楽しんでいた。応仁の乱が終わり、義政は東山に山荘を営む。1482（文明14）年より作事がはじられ、1483（文明15）年には、常御所が完成し、義政は移り住んだという。そして1485（文明17）年には、西指庵・超然亭・浴室、1486（文明18）年には持仏堂・西指庵の門、1487（長享元）年に

は、会所・泉殿、1488（長享2）年には、船舎・竜背橋、1489（長享3）年には、観音殿・漱蘇亭・釣秋亭、など次々と造られていったが、1489（延徳元）年、義政が死去し、工事が終了した。

ここで着目したいのは常御所である。ここでは義政が殿中の茶を行っていたと考えられる。ここには、主室に付属する茶の湯の間が設けられていたようである。ジョアン・ロドリゲスの『日本教会史』によると、義政は、はじめは客に対して最上のもてなしをおこなうよう同朋衆たちに命じていた

という。

『日本教会史』では、やがて御殿のそばに、茶を飲むための道具を置くことしかできないような小さな家を建てたという。ここに義政の茶に大きな変化があったというのである。その建物は、華美ではなく、田舎風であり、孤独の生活を営むのにふさわしい形式のものであった。そして四畳半の部屋を備え、棚の上などに国内外から集められた唐物を飾り、自ら茶を点てて、客に提供したという。先に記した東山山荘の造営の順をみていくと、最初に常御所が完成し、

義政自身が移り住んでいる。そして四畳半の部屋をもつ東求堂はその3年後に造られている。つまり東求堂同仁齋において義政自身が茶を点て、客に提供したと考えられるのである。

じつさい東求堂の修理工事においては同仁齋に「いるりの間」と書いた墨書が発見されたり、当時の文献『君台観左右帳記』には東求堂の北東に囲炉裏を備えた四畳半座敷があり、茶道具が飾られ、鎖が吊り下げられていることが記されている。そもそも同仁齋の名前は唐代の文人韓愈の言葉

「聖人一視而同仁」から付けられたことが『蔭涼軒日録』に記されている。聖人はすべての人を平等に慈しみ愛するという言葉を、「同仁齋」の言葉に込めたのである。

今と同じ点前であるとは考えられないが、ともかく義政は四畳半で茶を点てて、客に出したのである。東求堂のちに慈照寺の中で少し移築されたというが、自然景観が優れた東山山荘にあったことには違いはない。この場所では茶の湯を楽しむと、明障子なども開放して、周囲の景色を楽しんだことであろう。

市中の山居

市中の山居という言葉がある。ロドリゲスは「xichu no sankio」といった。町の中にあって人里離れた山中のような雰囲気をつくり、また簡素な建物を建てて、そこで茶の湯を楽しんだという。

先に記した足利義政の茶の湯空間から、市中の山居にいたる歴史を見てみたい。義政の茶の湯空間はひとつの理想であった。自然環境の豊かな東山の山麓、自然を映した広大な庭園に造られた建物には、唐物が飾られ客を楽しませていた。しかし誰もがこのような環境で茶の湯を楽しむことは不可能であった。そこでその後の茶人たちは新たな形式を模索した。

鷺尾隆康の『二水記』によると、下京で茶の湯を行っていた宗珠を「数奇（数寄）之上手也」と評価し、その茶屋（茶室）を「山居の鉢」と記していた。そしてロドリ

ゲスは、新しい茶の湯の形式を「侘数寄」と記していた。宗珠は下京、つまり都市中心部において、「山居の鉢」を造ったというのである。これが市中の山居、あるいは市中隠などと呼ばれる茶の湯の新しい形式であった。

ずっとのちに記録されたものであるが、『和泉草』に掲載されている紹鷗床無し四畳半の図を見ていただきたい。この四畳半には「玄関」が備わっている。「玄関」の言葉は、『国史大辞典』によると、玄妙に入るの門、幽玄の道の入口との意味があつて、それが建築に転じて禅院の方丈の入口をさす言葉となり、室町時代には武家の邸宅の入口に用いられたが、広く普及するのは江戸時代になってからとしている。一方、イエズス会が編纂した『日葡辞書』には、「Guanguan」として「茶の湯へ行くのに

通る道の入口」と記されている。ことさらに「茶の湯」への入口を強調した言い回しになっていることに着目したい。先に記したロドリゲスは、茶の湯を職業とする人に「数寄者」という言葉を使用し、彼らを禅宗の僧侶に例え、「数寄」という芸道は孤独な宗教の様式、と記している。すなわちこれらをあわせて考えると、当時の茶の湯には宗教的な要素が入り込み、その場所である茶室には、禅宗寺院の方丈にも似た性格が与えられていた、と考えられるのである。

武野紹鷗の茶室として、もう一つ紹介したい。『山上宗二記』に記載された茶室である。ここには6つのかなり正確だと考えられる茶室平面図が掲載されている。この図のひとつに紹鷗の四畳半がある。一間の床の間をもつ四畳半の茶室に、四畳半の書院が2室接続した形式である。この茶室は四畳半切り本勝手茶室で、欄口はなく、すのこえんが取り付き、その先に面の坪の内、そして矩折れに脇の坪の内が備わる。柱の多くは角柱として記されているが、外部に面した7本が丸太として描かれている。坪の内とされているところは丸太であるが、注目したいのはそのうちの1本が茶室内から見えているように記されていることである。つまり角柱の中に1本だけ丸太が室内から見えているのである。図面には鴨居が通常より低く、一間床は奥行きが2尺3寸で通常より狭く、床框は栗の木に掻き合わせ塗りで黒く塗るとあるので、いわゆる真塗ではなく、木目が見えるような塗り方であった。これらを見ると格式を落とした座敷となることがわかる。坪の内によって外部空間とは区切られた空間は、1本の丸太を自然を感じる要素として、室内に

持ち込んだのではないだろうか。

市中の山居の具体事例は現存しない。しかしながらかつての堺や京の町の中にはそのような形式の茶室が多数立てられていたものと考えられる。現時点で考えられるのは次のような内容である。

16世紀初旬から半ば頃にかけて、都市中心部のさほど大きくない屋敷に茶室が設けられた。その茶室は義政の東求堂をひとつの憧憬としたが、市民にはその環境を入手することは困難であったため、新たな考え方を導入した。それが市中の山居であった。町の中にあつて、山の中の素朴な暮らしをおこなっていた庶民の建築を参考にした。ひ

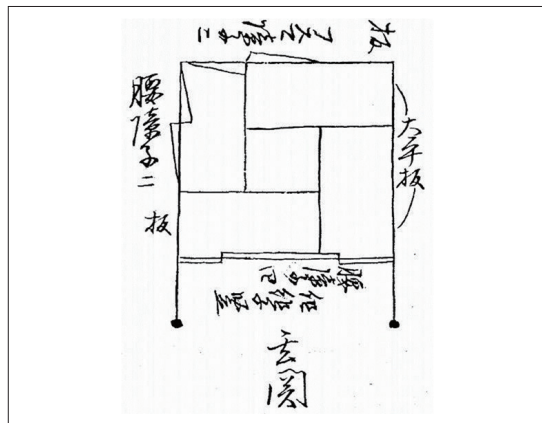
千利休と待庵

限られた誌面で千利休について語るのは、当然限界がある。ここでは簡単に記しておきたい。千利休は堺の商人であつて、はじめ織田信長の茶頭として、そして本能寺の変1582(天正10)年後は豊臣秀吉の茶頭として活躍するが、1591(天正19)年、突然秀吉の逆鱗に触れ、蟄居、そして切腹を命じられる。茶室についていうならば、信長に仕えていた頃には、主に四畳半の茶室を造っていたと考えられ、1582(天正10)年以后、秀吉に仕える頃から急激に変化をみせるようになり、二畳や三畳大目などの茶室を造るようになった。このように書くとき秀吉によって利休が大きく変わったように思われるかも知れない。しかし1582(天正10)年は、利休にとって還暦

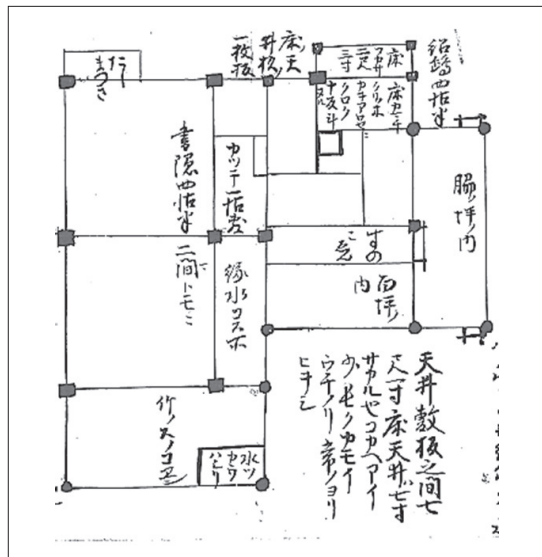
とつは町家の裏庭に、その誘いとしての幾本かの樹木を植え、小さな建物を建て茶室とした。そこは宗教的要素ももっていた。つまり心で想う山居である。また坪の内という小さな囲いを設けるパターンも出現した。坪の内は日常の世界を切り離す役割をもつ。そして丸太やあるいは土壁といった、自然とともに暮らしていた庶民の住宅の要素を組み込んだ。床の間に活けられた一輪の花は自然の象徴ともなった。

の年である。信長が好んだ『敦盛』の一節「人生五十年」は必ずしも当時の平均寿命ではなかったが、むしろそれより短いと考えられる時代、還暦を迎えることは利休個人にとって大きな意味をもったに違いない。さらに本能寺の変という、非常に大きな出来事に遭遇し、主君も変わったわけであるから、考え方をかなり大幅に変えたとしても不思議ではない。

さてこの1582(天正10)年頃に、利休は二畳、のちに待庵と呼ばれる茶室を造る。秀吉の命令によるとの説もあるが、少なくとも利休は秀吉が山崎城建築のとき、11月26日「山崎ヨリ」とした下柳道印宛の手紙に「畳十二畳請取候」とあり、十二畳程度の広間の座敷を造っていたことがわか



『和泉草』紹鷄床無し四畳半



『山上宗二記』紹鷄四畳半

る。また別の手紙には秀吉から「迷惑なこと」を頼まれた、などとも書かれていることから、新しく自邸に二畳の茶室を造ろうとしていた矢先、秀吉から広間の建築の命令があつたのかも知れない。むしろ画期的な二畳の茶室を造るのに、それを「迷惑」などというはずがなく、二畳は利休自らの強い意志で造られたものと考えられる。

さて、これまでの経緯を見ていけば、最初に記した、待庵の不思議が解けるだろう。つまり当時、心で自然を捉える建築として茶室が造られていた。市中の山居などと呼ばれ、あえて外部とのつながりを切り、土壁や丸太といった自然とともに暮らす庶民の建築要素を自然を感じるヒントとして使

その考え方が山崎の二畳に引き継がれた。自然豊かな山崎ではあるが、あえて自然との関係を土間庇や躰口で絞って、心の中に自然を描くような造りとしたのであつた。躰口は利休が舟から見た淀川の川漁師の小さな小屋への出入口がヒントとなった。下

地窓は庶民の住宅に設けられており、すでに鎌倉時代頃の一遍上人絵伝では庶民住宅の壁面に描かれていた。自然とともに暮らす庶民の住宅の要素が応用されたのである。その考え方は移築された現在の妙喜庵にも受け継がれている。妙喜庵は庭園をもつものの、あえて狭い場所に茶室を移築している。具体的自然との関係を意図して遠ざけたこの建築は、むしろ心の中に深く自然を意識する空間となっている。



遠く思えて身近なもの

南丹支部 島津陽慎

つい1年9ヶ月前、正月明けにコンビニへ立ち寄り買い物をした時、店員に「レジ袋の提供はできません」と言われ衝撃を受けたのを思い出します。

令和3年1月1日、私が住む亀岡市では、当時全国に先駆けプラスチック製レジ袋提供禁止条例が施行され、市内の約700所の小売店でレジ袋の提供が禁止されました。

それまでは無償でレジ袋をもらっていることに私を含め皆さん何の違和感も持たなかったことと思います。しかしながら全国的にレジ袋有料化が進んだ今、レジ袋をもらうことに罪悪感さえ感じ、もらえないことが当たり前と思うようになりました。入店の際、エコバッグを車に忘れたら取りに行くほど意識に定着しています。

この条例をいち早く施行するきっかけとなったのが、亀岡から嵐山へと流れる保津川を遊覧船で下る船頭さんが、保津川溪谷



保津川



水辺のプラスチックごみ

自分自身がどう考えて行動していくかが、この先の持続可能な社会につながるのではないかと思います。

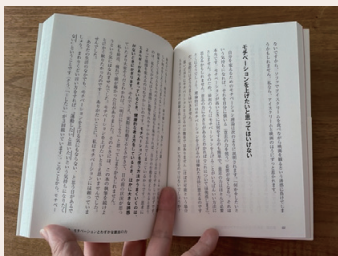
に浮かぶペットボトルやレジ袋、発泡スチロールなど拾っても拾っても無くなりませんプラスチックごみ、大雨などで川が増水すると再びプラスチックごみだらけになる現状を見て、これ以上、下流にプラスチックゴミを流せないという思いから様々な活動を行い、後に市が「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発信したのが始まりです。近年、よく耳にする海洋プラスチックゴミ問題。これは決して遠くで起きている問題ではありません。近年の調査によると、日本沿岸に漂着する海岸漂着ごみの大半が国内の内陸河川由来のごみであるといわれているそうです。意外にも発生源は私たちの身近な環境からなんです。

レジ袋有料化によって、日本のすべての人がプラスチックごみ問題の当事者になりました。これはとても意味があったと思います。これにより感じた気づきや不満を、

【小さな習慣】

タイトルの「小さな習慣」とは、〈毎日これだけはやると決めて必ず実行する、本当にちょっとしたポジティブな行動〉のこと。

たとえば腕立て伏せ1回。10年間も運動不足だった著者は、そこからスタートして今では、本格的な筋トレをこなすようになったとか。シンプルな提言と、心理学、脳科学など、それを支える骨太な科学的記述が読者に受けてか、刊行から、順調に版を重ねている。



著者：スティーブン・ガイズ
訳者：田口未和
発行：ダイヤモンド社
定価：1,400円(税別)

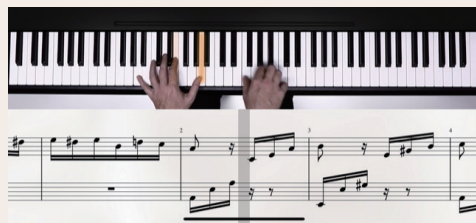
大喜書店

京都市下京区麩屋町五条上ル下鱗形町563番2
TEL：075-353-7169
OPEN：12:00～18:30 水曜日定休(土・日・祝日は11:00～)
京阪・清水五条駅から徒歩5分

コロナの自粛期間中、お茶の稽古もお休みで、なんとなく仕事以外に没頭できるものが欲しいなと思っていたところ、たまたま行った電気量販店で、安売りしていた電子ピアノを衝動買いしてしまいました。私のピアノは子供の頃、先生が怖くてお稽古に行かなくなっていた以来、独学でちょっと弾いてはすぐに止めて、一曲も完成させることなく、挫折を繰り返してきたという歴史があります。そんな雪辱を今頃、果たすことができるのか。

譜が止まって知らせてくれます。基礎から毎日コツコツと練習しておりましたら、子供の頃、弾ける気のしなかった曲をなんとか完成させることができました。ハイテクノロジーのおかげで、ピアノの先生のトラウマも克服し、すっかり楽しくなりまして、朝夕のピアノの稽古が小さな習慣となっている今日この頃です。

(大喜書店 岡田良子)



「京都だより」作品紹介ギャラリー

あなたの作品を広く紙面で紹介してみませんか？

本会では会誌「京都だより」に、会員の作品紹介ページを設けています。
建築、インテリア、ランドスケープなど、みなさまの個性あふれる作品をお待ちしております。

掲載に関して

- 募集対象は（一社）京都府建築士会会員が設計もしくは施工に携わったものとします。
- 掲載料は無料ですが、広報編集委員会にて選考の上、掲載させていただきます。応募作品多数の場合等は、掲載できないこともありますのでご了承下さい。
- 写真の撮影者名は必ず付記願います。写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて対応願います。
- 掲載頁数は原則として1頁とします。
- 建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いすることがあります。
- 作品の掲載順及び紙面レイアウトを含む全体の構成は広報編集委員会にて担当します。
- 概要及び説明文はメールで送付願います。

提出資料

- 写真／外観、内観等 3、4 枚。
画像解像度 400 dpi 以上推奨。
デジカメ撮影の場合は 1 メガバイト以上を目安。
プリントの場合は 2L サイズ程度。
- 概要／作品名称、所在地、建築主、設計者、施工者、用途、工期、建築面積、延床面積、構造規模。
- 説明文／作品に関する考え方を 400 字以内にまとめてください。
- 設計図書／選考用として平面、立面、断面、その他。

原稿期日及び送付先

- 期 日／毎月 25 日
- 送付先／（一社）京都府建築士会事務局
「京都だより 作品紹介」係

編集後記

安倍晋三前内閣総理大臣が凶弾に倒れました。参議院選挙帳票日を目前に控えた7月8日のことでした。

議員というのは、法律を作るのが仕事で、私たち建築に関わる者は、日々、建築基準法等と戦いながら仕事をしているように思います。

法律とは何でしょうか？ 何のためにあるのでしょうか？ 私は、社会に秩序をもたらす、国民の健康と安全を守り、以って、国家の繁栄をもたらすために必要不可欠なものかなと解釈しています。

政治家は、議員になっていなくても政治を研究し論じ立法に関係する役目の人はみな政治家な気がします。

国民ひとりひとりが政治家になったつもりで、物事を考えれば日本の国はもっと良い方向に向かいそうな気がします。

目先の損得で判断せず長いスパンで物事を考えて、100年後1000年後も日本という国があり、幸せに暮らしている未来でありますように。安倍さん見守ってね。
(徳光都紀子)

室町幕府八代將軍足利義政は晩年の隠居所として、1482（文明14）年より東山殿の造営に着手し、1490（延徳2）年に亡くなるまで造営を続けた。義政の死に伴い、その遺言に基づいて菩提を弔うため寺院に改められ、院号をとって慈照寺と称されるようになった。当時の建築は1558（永禄元）年の戦乱に巻き込まれ、観音殿（銀閣）と東求堂を残して他は失われたと推測されている。

観音殿のような殿閣建築は、鹿苑寺舍利殿（金閣）以降、將軍の館の奥向きの施設として欠かさない建物であったらしい。義政による観音殿の造立は、応仁の乱以前に烏丸殿、室町殿を造立しているが、慈照寺観音殿造立の時には、他の観音殿は失われていて鹿苑寺舍利殿のみが残っていた。鹿苑寺舍利殿の初層は寝殿造り風であるが、慈照寺では書院造風で上層の様式は禅宗仏殿の形式で和様の要素も多く折衷様の仏殿である。

方形屋根、柿葺きの二重殿閣で東を正面とする。下層は面取角柱が礎石の上に建ち、柱上に舟肘木を付け、東面のみ二軒で、他はすべて一軒の疎垂木になっている。上層は、組物出三斗、中備えは間斗束を配し、軒は二軒疎垂木、四周には平三斗付きの切目縁を巡らし、和洋の高欄を付ける。

スケッチは南面を描いたものだが、境内はスケッチ禁止であるため、南面を写真に収め、手前にそびえる樹木を省いて描いてみた。銀閣がなぜ銀閣と呼ばれるかは不明であるが、上層の観音殿部分に施された黒漆が、光ると銀のように見えたという説もあり、境内には壁面に黒漆、垂木に極彩色に施した実大模型が展示されている。スケッチは上層が黒漆であったらこう見えるかな？との想いも重ねて着色してみた。



慈照寺 観音殿

戸田建設（株）大阪支店建築設計室 林 伸昭

表紙のこぼれ

一発合格を目指すならその道のプロがサポートします。

総合資格学院は
京都府も全国も
合格実績

No.1

令和3年度 1級建築士設計製図試験 全国合格者3,765名中 / 当学院当年度受講生1,986名 全国合格者占有率52.7% (令和3年12月30日現在)

令和3年度 1級建築士 学科+設計製図試験

京都府
ストレート
合格者占有率

63.6%

京都府ストレート合格者33名中 / 当学院当年度受講生21名
(令和3年12月24日現在)令和3年度 2級建築士 学科試験
当学院基準達成当年度受講生
合格率

94.0%

8割出席・8割宿題提出・総合模擬試験
正答率6割達成当年度受講生763名中 / 合格者717名 (令和3年8月24日現在)

※全国/都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者は、令和3年度1級建築士学科試験に合格し、令和3年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

京都府
合格者占有率

59.5%

京都府合格者79名中 / 当学院当年度受講生47名
(令和3年12月24日現在)令和3年度 1級建築施工管理 第二次検定
当学院基準達成当年度受講生
合格率

94.5%

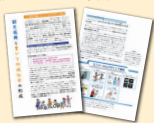
8割出席・8割宿題提出
当年度受講生531名中 / 合格者502名 (令和4年2月6日現在)全国合格率
52.4%に対して
その差
44.6%令和5年度
受講生
募集中1・2級建築士
試験対策講座スタート!!総合資格学院 京都校にて、
早期講座【新傾向対策講座】の
体験入学受付中!!過去問対策プラス
ここで差がつく

新傾向対策講座*

国の主要政策や、建設業界の最新動向を踏まえ、新たに問題が予想されるポイントを徹底分析。対策が難しい新傾向問題の攻略に照準を合わせた学習で、合格の可能性を大いに高めます。

トップ企業の実務者も
監修している オリジナル教材

建設業界の最新動向や建築技術者として求められる情報、合格に必要な知識などについて、写真やコラムを用いわかりやすく体系的にまとめた総合資格学院の完全オリジナル教材。

お申込み・お問合せは
京都校までお気軽に!

京都校

京都市下京区四条通西洞院東入郭巨山町18番地
ヒラカビル 6F

TEL.075-253-0481



総合資格学院

おかげさまで
総合資格学院は「合格実績日本一」を達成しました。
これからは資格者の育成を通じて、業界の発展に
貢献して参ります。

総合資格学院 学院長 岸 隆司

スクールサイト www.shikaku.co.jpコーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

総合資格

検索

Twitter ⇒ @shikaku_sogo

LINE ⇒ 「総合資格学院」 Facebook ⇒ 「総合資格 fb」で検索!

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級
管工施工管理技士1級・2級
建築施工管理技士1級・2級
土木施工管理技士1級
造園施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター賃貸不動産
経営管理士

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ● 近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION & INSPECTION



株式会社 京都確認検査機構

Kind (親切) Open (明快) Certain (確実) Immediate (迅速)

■業務内容:

- 建築確認 (事前審査有)・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》
- 住宅金融支援機構《フラット35 (適合証明業務)》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画 (技術的審査)
- 低炭素建築物新築等計画 (技術的審査)
- 建築物エネルギー消費性能確保計画 (省エネ適合性判定)

■業務区域: 京都府全域

■手数料: 当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。
● 納入は当社受付窓口または銀行振込で。

■営業時間・休業日

- ◆ 営業時間 午前9:00~午後5:30
- ◆ 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆
(年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします)

〒604-0931
京都市中京区二条通寺町東入榎木町82
宮崎ビル4階TEL: 075-256-8980 審査部
075-256-8981 検査部
075-256-8982 構造部
075-256-8984 評価部
FAX: 075-256-8985 審査・構造部
075-256-8986 検査・評価部● ホームページ <http://koci.co.jp/>
● Eメール sinsa@koci.co.jp

~ご利用をお待ちしております~

契約駐車場 (新榎木町沿コインパーキング・市営御池
地下駐車場) については駐車券を配布しております。